

周南市熊毛地域の国道2号  
歩道等の整備及び4車線化による  
安心・安全の確保について (案)



平成24年 月

熊毛地区地域審議会

## 1. はじめに

本市の国道2号は、臨海工業地帯に沿って発展した東西の市街地を結ぶ大動脈であり、市民の日常生活及び経済活動の幹線として大きな役割を担っています。

熊毛地域の国道2号は、全長約9kmは交通量が多く朝夕の交通混雑が著しいにもかかわらずほとんどが2車線であるとともに、歩道が狭小・危険でありながら多くの児童、生徒が国道に接して登下校しています。

このことから、市民の安全・安心を守り、市民のいのちを守るとともに、「住みたい」まちにするため、歩道等の整備及び全線4車線化を早急に実現することを目的とします。



## 2. 現 状

### (1) 国道2号

国道2号は、熊毛地域東部においては平成14年に「樋口登坂車線工事」が完了し、隣接する岩国市周東町から熊毛地域樋口までの区間について、上下線の片側のみ2車線となっています。

特に、下り車線については登坂車線の設置により、交通渋滞の解消としての役割を果たしていると思われます。

一方、西部は、花岡バイパス全線（下松市）が平成17年から全線供用となっています。

なお、周南市西部では、戸田付近を中心に平成23年9月に4車線化整備がされており



※1(岩国市側へ向けて)

※2(JR 大河内駅付近から下松市側へ向けて)



## (2) 交通量

「平成 22 年度道路交通センサス」によると、平日 24 時間交通量が約 23 千台であり、周南市西部の 27 千台と比較しても、決して少なくない交通量となっています。

17 年度調査との比較では、約 3 千台増加しています。

## (3) 通学路

地域内には、小学校 5 校と中学校 1 校があり、その内国道 2 号線沿線を通学路としている学校は、勝間、大河内、高水小学校の 3 小学校及び中学校が該当します。

通学経路の指定については、第一に安全面を配慮して指定されていますが、中学校については、遠距離からの自転車通学の割合も高いことから、生徒数の 64% が国道沿線の歩道を通行しています。また、勝間小学校においても、児童数の 79% に上る高率となっています。

さらに、県立熊毛北高等学校や隣接する下松市、光市の高校への自転車通学生徒も多くみられています。

国道 2 号線沿線を通学路としている児童・生徒数の状況調査

(2011. 9. 1 日現在)

学校名	該当者 (a)			全校数 (b)			割合 (%) a/b*100
	男	女	合計	男	女	合計	
熊毛中学校	148	133	281	244	195	439	64.0
高水小学校	9	13	22	71	68	139	15.8
勝間小学校	200	172	372	248	219	467	79.7
大河内小学校	1	0	1	81	95	176	0.6

## (4) 通勤路

国勢調査 (平成 12 年度) によると、本地域に住み他地域で従業している人数は 5, 377 人で、内下松市・旧徳山市・旧新南陽市に通う 15 歳以上の就業者数は 3, 644 人 (68%) となっており、そのほとんどが国道 2 号線を利用していると考えられます。

### 3. 課 題

---

多くの児童・生徒が通学路として利用している国道2号線の歩道は、全般的に狭小で、転倒防止用のガード等の設置がされていない箇所が多く、道路の片側しか歩道整備がされていない箇所も存しています。

通学時には事故一步手前の「ヒヤリ・ハット」が多発する中で、接触事故も数件発生しており、過去には悲しい事故も発生しています。

このことから、中学校では特に危険な場所・防護柵が無い場所では自転車を押して歩く区間を設けるとともに、登下校時には教員が危険個所において交通立哨を行っております。

このように、指導等で出来る限りの事故防止対策を行っているにもかかわらず、事故が無くならないことから、市民の安全・安心を確保し市民のいのちを守るためには、歩道の整備等により道路の構造を変える以外に方法が無いと言えます。

本地域は、周南工業地域の後背地として数多くの住宅団地が造成され、3,000人を超える就業者が国道2号線を利用して通勤しています。

しかしながら、朝夕の混雑により、通勤時間が通常の倍以上かかるなど、24時間交通量が23千台にもかかわらず2車線であることがボトルネックとなっております。

また、生活用品の買い物・通院等にも欠かせないルートとなっており、4車線に整備することにより、交通の利便性に優れた住み良いまちにすることが必要です。

さらに、災害時の観点からは、先の「東北地方太平洋沖地震」(H23.3)など、大規模災害の発生時に備えた物流体制を考慮しておく必要があります。

地震等が発生した場合、現在の2車線では大混雑が予測されることから、4車線化により、人・物の移動ルートを確保することは、必要不可欠であるといえます。



周南市呼坂  
(熊毛中通学路)  
徳山方面

中学校前市道～国道に出た箇所(歩道幅 約1.3m)生徒が多くみられる場所。

歩道が設置してある場合、こういうパターンが一番多い。反対車線側はガードなし。

-4-



周南市大江  
(緑ヶ丘団地入口)  
岩国方面

JR岩徳線の踏切近く(右側)。通行者が多いと離合が困難となり危険



周南市大江  
(緑ヶ丘団地入口)  
徳山方面

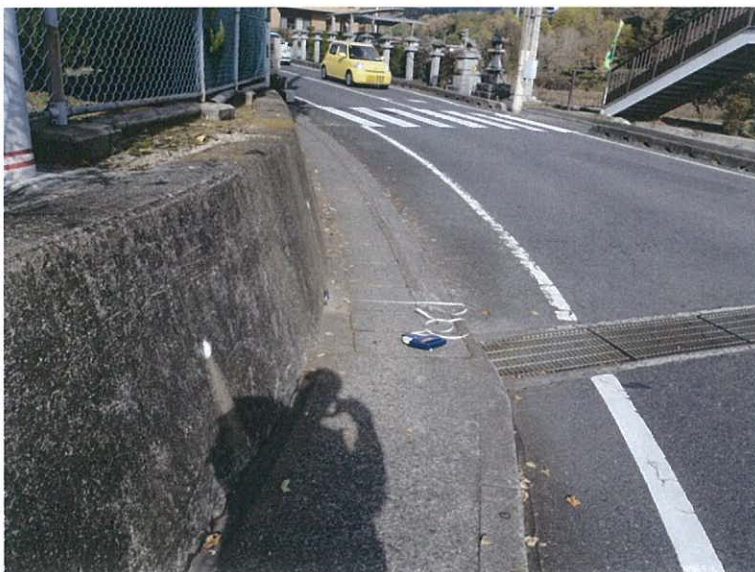
反対車線側はガードなし。



勝間駅前付近から  
岩国方面



勝間駅前交差点付近



勝間駅前交差点付近

歩道幅 0.9m

児童が登下校で通る



勝間ミコー付近から

遠見方面

道の両端ガードなし



周南市遠見





周南市遠見  
岩国方面



周南市遠見  
岩国方面

歩道が狭く、ガードがない



## 4. まとめ

---

本地域において、早期に歩道等の整備及び国道4車線化を実現することは、地域住民の長年の願望であり、市民の安全・安心を守り市民のいのちを守るために、最も重要な課題となっています。

児童・生徒が安全・安心して通学が出来ることを、地域住民全員が最も願っております。

また、「住み良いまち・住みたいまち」にするためには、国道4車線化により通勤・通学、通院や日常生活の買い物等がスムーズに行えることが欠かせません。

さらに、近年の被害が甚大化するような大規模災害に対する人・物の移動ルートの確保は、決して先延ばしできるものではなく、行政が早急に取りかからなくてはならない緊急課題と考えます。

よって、国・県並びに関係機関にあらゆる手段・方法により、強く要望していただき、1日も早く整備されますようお願いするとともに、市民の「安心・安全」を確保するために、市独自の整備も検討していただきますよう、強く要望します。